

2020年4月27日

大学院生の皆さまへ

保健医療福祉学研究科
研究科長 金村 尚彦

研究科長メッセージ

4月18日土曜日に開催されました大学院特別研究発表会では、遠隔会議システムを導入いたしました。本学でも初めての試みでありましたが、デザイン・中間発表者の皆様、教職員の皆様、スムーズな進行にご協力いただきありがとうございました。発表会前日までの準備や当日の司会進行、サポートなど皆様の連携の賜物であります。

苦境に立った時にどのように対処するのかが改めて問われています。健康に配慮し、現在の生活を維持しつつも、様々な知恵を絞り、社会全体が連動し、この難局を乗り越えようとしています。

かつて世界的に流行した天然痘を撲滅できたのは、世界中の科学者や医療関係者の研究成果や臨床情報を共有し、治療薬を開発、衛生環境の改善などが進み、人類が天然痘の予防接種を受けられるようになったことで、1979年以降この病により命を落とす人は存在しなくなりました。

このように各国からの信憑性のあるデータを持ち寄り、常に最新の情報を分析・解釈し、どのように臨床現場で応用するのかを考えることが重要です。

アーノルド・ベネットは、「物事の原因と結果に深く思いをめぐらせていれば、人生の苦悩は減り、他方、人生はより味わい深く、豊かなものとなる。」と述べています。

(自分の時間；アーノルド・ベネット著、渡部昇一 訳 三笠書房 p120)

本学では、皆様の健康を第一に考え、学内への立ち入りを制限しています。新しい試みとして、遠隔システムにて講義を配信しています。教職員も不慣れな点がありますが、システムとして確立できるように日々試行錯誤を重ねています。大学院生皆様の研究においても、当初の研究計画では進められないことが想定されます。計画や実施の変更に対応できるように、指導教員とも十分に進捗状況についてもご相談をお願いします。また経済的な支援なども必要な場合には、本学事務局担当へもご連絡ください。

共にこの難局を乗り越えましょう。乗り越えた先には、新しい価値観が生まれていることでしょう。

最後に多くの大学院生の皆様が医療現場にも従事していると思います。日々の職務に感謝申し上げます。